

情報・システム研究機構教育研究評議会（平成30年度第3回）議事要旨

日 時：平成31年1月25日（金）10：00～11：45

場 所：情報・システム研究機構 会議室

出席者：岡田清孝評議員、栗原考次評議員、鳥海光弘評議員、
BENTON Caroline Fern 評議員、安成哲三評議員、津田敏隆評議員、
樋口知之評議員、桂勲評議員、小池良高評議員、中村卓司評議員、喜連川優評議員、
花岡文雄評議員、藤山秋佐夫評議員、野木義史評議員、相澤彰子評議員、
伊藤聡評議員、城石俊彦評議員

オブザーバー：鈴木監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、事務局より、議長である藤井機構長が欠席のため、評議会規則に基づき平成29年6月に議長より指名された津田評議員がその職務を代理する旨、説明があった。

津田評議員より、3号評議員として就任した花岡評議員の紹介があった。また、本会の成立要件の確認があった。

議 事：

【審議事項】

(1) 組織運営規則の一部改正について

小池評議員より、資料1-1～1-4に基づき説明があり、審議の結果、経営協議会でも審議の上、役員会にて審議することが了承された。

<意見概要>

- 日本アイ・ビー・エムとの契約が期間満了になるとのことだが、実施していた研究はどのような扱いとなるのか。
→ 昨年4月からLINE社との共同研究を開始した。研究としては以前より発展をしている。

(2) 2019年度経営協議会外部委員候補者について

小池評議員より、資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承し、機構長に報告をすることとした。

【報告事項】

(1) 研究教育職員に係る人事異動について

小池評議員より、資料3に基づき報告があった。

- (2) 平成 29 事業年度における剰余金の使途の承認について
小池評議員より、資料 4 に基づき報告があった。
- (3) 第三期中期目標期間における「施設・環境整備及び教育・研究プロジェクト計画」について
小池評議員より、資料 5 - 1、5 - 2 に基づき報告があった。
- (4) 2018 年度補正予算（一般経費）について
小池評議員より、資料 6 - 1、6 - 2 に基づき報告があった。
- (5) 2019 年度（平成 31 年度）国立大学法人運営費交付金等予定額の伝達について
小池評議員より、資料 7 に基づき報告があった。
- (6) 平成 29 事業年度の業務実績に係る評価結果について
津田評議員より、資料 8 - 1 ~ 8 - 4 に基づき報告があった。

<意見概要>

- 特筆すべき点は寄附金の受入額の増加が重要視されているのか。
→ 機構も財務内容の改善に関する目標が一定の注目事項がある評価をされているが、必ずしも力点を置いたというわけではない。

- (7) 研究環境基盤部会に係る報告について

津田評議員より資料 9 に基づき報告があった。今回の議論の内容は、後日、藤井機構長に報告するとの説明があった。

<意見概要>

- この議論の前提であった学術経営の効率化よりも、運営自体を主体とすると機能しないものになるのではないかと。連合体として目指すサイエンスが何かというそのビジョンがまず必要である。
- 同じく一般社団法人である国大協は、文科省に交渉する国立大学のポリシーを取りまとめており、重要な役割を果たしている。今は大学同士のコラボを促す等、戦略的にアイデアを出している。
- 各機構単独で出来ないことを連合体がサポートしていくようなことが本質ではないか。
- 異分野の連携、融合を積極的に進めるために連合体を立ち上げるということ

考えるべき。総研大も含めて新たな方向を積極的に進めて連合体を機能させるためには、まずは4法人で制度設計を考えていく必要がある。

- 4 機構ではみ出していた面白い研究分野を評価した上で、全てリストアップし、連合体として協力し、積極的に連携して取り組むという意識と下準備が重要で、ぜひ機構連絡会議等でしっかり議論してほしい。その際に、データサイエンス共同利用基盤施設や SINET 等の存在意義は大きく、他の機構とのコネクションも議論・強化すべきだと考える。
- 大学共同利用機関発足時に4 機構となり、努力してきたのに1つとなるのは今更感もあるが、決まった以上は良いものにしてほしい。教育については総研大が含まれているから良いだろうというスタンスでは不十分。連合体になるという機会を使って、全国の国公立大学との学生交流をさらに盛んにすることも考えてほしい。
- 基礎科学力の復権が課題として挙げられているが、トップが安定するためには基盤が重要である。基礎科学力に関するピラミッドをいかに作るか考えなくてはならない。大学院教育だけではなく、その下の学部生、中高生に夢を持たせられるシステムを考えてほしい。
- 大学院教育は専門が狭まっていきやすく、他の分野のことが分からない。学生が最先端の異分野研究に関われる機会ができるようにしてほしい。
- 大学訪問の結果、大学共同利用機関は大学の執行部にさえもあまり知られていないことを改めて感じた。大学共同利用機関のステークホルダーとして最も重要な大学に対して、連合体としての広報推進は重要ではないか。また、共同利用・共同研究の資産等を統合化し、IR に活用し、異分野融合につなげていくことも連合体に期待できることの一つである。

(次回の教育研究評議会の日程について)

- ・ 次回の教育研究評議会は、3月15日(金)10:00から、情報・システム研究機構会議室にて開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・ 前回議事要旨
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について(案)・・・【資料1-1】

- ・国立情報学研究所組織改正について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 1 - 2】
- ・情報・システム研究機構組織運営規則（新旧対照表）・・・・・・・・・・【資料 1 - 3】
- ・情報・システム研究機構組織運営規則（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 1 - 4】
- ・情報・システム研究機構経営協議会外部委員候補者(案)・・・・・・・・・・【資料 2】
- ・研究教育職員に係る人事異動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 3】
- ・平成 29 事業年度における剰余金の使途の承認について・・・・・・・・・・【資料 4】
- ・第三期中期目標期間における「施設・環境整備及び教育・研究プロジェクト計画」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 5 - 1】
- ・(第三期中期目標期間における) 情報・システム研究機構 施設・環境整備及び教育・研究プロジェクト計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 5 - 2】
- ・2018 年度補正予算編成方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 6 - 1】
- ・2018 年度補正予算（一般経費）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 6 - 2】
- ・2019 年度（平成 31 年度）国立大学法人運営費交付金等予定額の伝達について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 7】
- ・平成 29 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）・・【資料 8 - 1】
- ・平成 29 年度に係る業務の実績に関する評価結果 情・シス機構・・・・・【資料 8 - 2】
- ・平成 29 年度に係る業務の実績に関する評価結果等について（事務連絡）・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 8 - 3】
- ・国立大学法人等の平成 29 年度評価結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 8 - 4】
- ・研究環境基盤部会配付資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 9】